



令和4年(2022年)12月21日

テーマ展「彦根藩の年中行事」を開催します

このたび、彦根城博物館において、みだしの展覧会を開催いたしますのでお知らせします。つきましては、広報についてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1 展覧会名称

テーマ展「彦根藩の年中行事」

2 会 期

令和5年(2023年)1月1日(日・祝)～2月7日(火) 会期中無休

開館時間：午前8時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

3 会 場

彦根城博物館 展示室1

4 展示の趣旨

毎年特定の日時に行われる年中行事は、江戸時代には現在よりも盛んに行われていました。彦根藩においても、藩主や藩士の日々の暮らしのなかに見られるほか、藩士が勢揃いするような行事もしばしば行われました。これらには、現代と同じような慣習もあれば、大きく違うものもありました。

例えば、正月に雑煮を食べたり、鏡餅を飾ったりすることは、現在でも江戸時代でも共通しています。ただ、全く同じということではなく、江戸時代には武家に特徴的なものとして、具足飾^{ぐそくかざり}という正月飾があり、甲冑^{かっちゅう}とともに鏡餅も飾られていました。鏡餅は彦根城表御殿にいくつも飾られましたが、具足飾の鏡餅が最も重要なものとして扱われました。

正月にはまた、彦根藩士が惣出仕^{そうしゅっし}し表御殿で藩主にお目見えする対面儀礼が行われていました。上級の藩士は表御殿の書院で藩主から盃を賜り、下級の藩士は、大広間などに勢揃いしてお目見えをしています。年始の対面は、彦根藩にとって正月の主要な行事でした。

正月以外にも彦根藩では、五節句^{ごせつこう}や盃蘭盆^{うらぼん}(7月15日ごろ)、月見(8月15日および9月13日)、煤払い^{すすはらい}(12月13日)などさまざまな年中行事が行われています。上巳^{じょうし}(3



月3日)や端午(たんご 5月5日)等の節句では、正月同様に藩士の惣出仕がありました。一方、月見では大規模な儀式は行わず、月見そのものを楽しんだり、贈答が行われたりしていました。

本展では、かつて彦根藩で行われた正月行事の様子をはじめ、彦根藩の年中行事を紹介します。

5 展示作品

別添リストの36件

6 観覧料

一般 500円(450円)

小・中学生 250円(170円) ()内は30名以上の団体割引料金

*常設展「“ほんもの”との出会い」も併せてご覧いただけます。

7 関連事業

(1) スライドトーク

日時：令和5年(2023年)1月7日(土) 午後2時00分～2時30分

場所：彦根城博物館 講堂

定員：50名(当日先着順、午後1時30分から受付開始)

参加費：無料 *展示室の入室には、別途観覧料が必要です。

担当：早川 駿治(当館学芸員)

(2) 関連講座

演題：年中行事を比較する 一江戸幕府・彦根藩・彦根藩士家一

日時：令和5年1月14日(土) 午後2時～3時30分

場所：彦根城博物館 講堂

定員：50名(当日先着順、午後1時30分から受付開始)

資料代：100円 *展示室の入室には、別途観覧料が必要です。

担当：早川 駿治(当館学芸員)

問い合わせ先

彦根城博物館 学芸史料課

担当：早川 駿治

電話：0749-22-6100

FAX：0749-22-6520

※12月29日(木)～1月3日(火)は年末年始休日期間のため、恐れ入りますが、本件のお問い合わせはこの期間以外でお願いします。

■ テーマ展「彦根藩の年中行事」展示リスト ■						
No.	指定	名称	年代	数量	所蔵	備考
彦根藩の正月行事						
1	重文	側役日記	安永8年(1779)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	1月1日条。
2	重文	年中御定例御祝留	江戸時代後期	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	
3		黒漆塗橘紋蒔絵膳碗類	文久2年(1862)11月	1組	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)	
4	重文	彦根城表御殿正月御礼式図	明治20年(1887)	1枚	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	明治期に幕末のころを振り返って作成されたもの。
5	重文	広小路御子様方定式祝儀覚	安永3年(1774)12月	1通	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	
6	重文	梅暁院書状 井伊庭五郎他宛	江戸時代	1通	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	
7		年中行事書上	寛政12年(1800)12月	1冊	彦根城博物館 (八木原太郎右衛門家伝来文書)	
8	県指定 (一部*)	具足飾	江戸時代	一式	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)	朱漆塗紅糸威縫延腰取二枚胴具足(井伊直弼所用)、太刀拵、重藤弓、鉄燭台、黒漆塗橘紋蒔絵三宝を展示。
9	重文	側役日記	宝暦7年(1757)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	1月11日条。
10		同役書状 大久保小膳宛	江戸時代後期 正月10日	1通	彦根城博物館 (彦根藩大久保家文書)	
11		年中行事留書	江戸時代	1冊	個人 (岡本半右衛門家文書)	
定例の登城						
12	重文	彦根城表御殿朔望御礼式図	明治20年(1887)	1枚	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	明治期に幕末のころを振り返って作成されたもの。
13	重文	殿中御作法向 一 年中行事之覚	江戸時代中期	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	
14	市指定	彦根勤方留	江戸時代	1冊	個人 (宇津木三右衛門家文書)	
15		熨斗目 紫地格子入り六枚鷹羽紋付き	江戸時代	1領	個人	
16		袴 黒地鮫小紋六枚鷹羽紋付き	江戸時代	1組	個人	
年中行事のさまざまな様子						
17		御内輪年中御仕成留等書付	江戸時代後期	1冊	彦根城博物館 (彦根藩大久保家文書)	上巳。
18		小野田小一郎書状 小沢作左衛門宛	江戸時代中期	1枚	彦根城博物館 (彦根藩大久保家文書)	端午。
19		楽々亭座右耳袋 井伊直亮著	江戸時代後期	1冊	彦根城博物館 (井伊家伝来典籍)	七夕。
20	重文	側役日記	明和9年(1772)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	盂蘭盆。7月14日条。
21	重文	側役日記	文化9年(1812)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	中元。7月15日条。
22	重文	民部様御賄御用日記	寛延元年(1748)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	八朔。8月1日条。
23		長尾書状 春野他宛	江戸時代後期	1通	彦根城博物館 (彦根藩大久保家文書)	月見。
24		朱漆塗不忍池図蒔絵盃 松山作	江戸時代	1口	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)	月見。
25		月見謹上詩	江戸時代	119枚のうち3枚	彦根城博物館 (井伊家伝来資料)	月見。
26	重文	松茸狩一件留書	江戸時代	1綴	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	松茸狩。
27	重文	民部様御賄御用日記	延享4年(1747)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	重陽。9月9日条。
28	重文	民部様御賄御用日記	延享2年(1745)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	玄猪。10月12日条。
29		支払等覚	安政4年(1857)12月	1冊	個人 (孕石備前家文書)	歳暮。
30	重文	側役日記	安永7年(1778)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	煤払い。12月13日条。
31	重文	御煤納御祝儀献立下留	江戸時代 12月13日	1枚	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	煤払い。
32	重文	側役日記	明和7年(1770)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	節分。12月20日条。
33		年中行事覚書	天保2年(1831)12月	1冊	個人 (永田権右衛門家文書)	節分。
彦根藩最後の年中行事						
34	重文	御蒸物留帳	明治3年(1870)～同4年	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	
35	重文	正月御祝儀御用留	明治3年(1870)～同4年	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	
36	重文	御膳方日記	明治4年(1871)	1冊	彦根城博物館 (彦根藩井伊家文書)	3月2日から3月5日までの箇条。

※重文：国指定重要文化財 県指定：滋賀県指定有形文化財 市指定：彦根市指定文化財
*No. 8の展示作品のうち、朱漆塗紅糸威縫延腰取二枚胴具足のみ滋賀県指定有形文化財

写真解説

1 年中御定例御祝留 1枚 【展示リスト2】

縦25.0cm 横17.0cm 江戸時代後期

当館蔵(彦根藩井伊家文書)

2 黒漆塗橘紋蒔絵膳碗類 1組 【展示リスト3】

文久2年(1862)11月

当館蔵(井伊家伝来資料)

年中御定例御祝留は、年間の定例の祝儀の際に、藩主に出される料理の献立等を記載した帳面。冒頭に書かれている元日朝の内容は、藩主が早朝に表御殿の奥向きから表向きの御座の間へ移動したのち、定式の正月祝儀の膳が出された時のものです(このあとに藩主は書院に移り、惣出仕した藩士のお目見えを受けることになります)。膳の最初に、長熨斗(長く伸ばして作った熨斗 鮑)、喰積(三宝に米、熨斗鮑、勝栗、昆布などを盛り付けたもの)、高盛三汁八菜等が出され、その後引き替えに雑煮、二汁六菜等が出されています。高盛とは碗などに食べ物を高く盛ることです。長熨斗、喰積、高盛は出されるだけで食わず、引き替えに出されたものを食べたものと見られます。

黒漆塗橘紋蒔絵膳碗類は、碗や皿、それらをのせる懸盤、飯櫃、湯桶などからなるセットで、箱に「御高盛御膳部」と書かれており、高盛のためのものと見られます。文久2年1月に新調されたもので、黒漆塗の地に井伊家の家紋である橘紋が施されています。



年中御定例御祝留



黒漆塗橘紋蒔絵膳碗類

- 3 ^{ぐそくかざり} 具足飾 一式 【展示リスト8】
江戸時代
当館蔵(井伊家伝来資料)

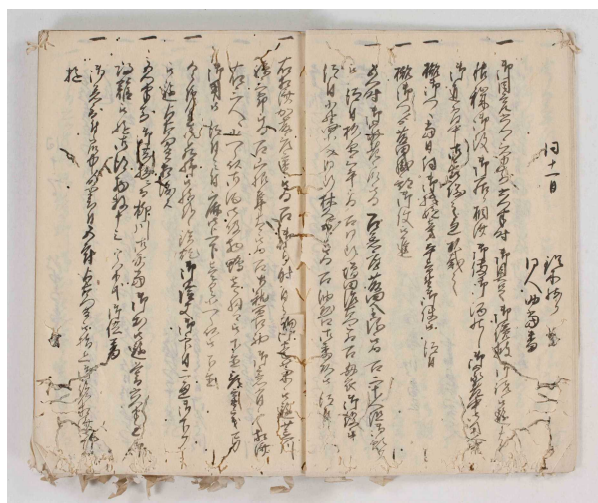
- 4 ^{そばやくにつき} 側役日記 1冊 【展示リスト9】
縦29.6cm 横20.8cm 宝暦7年(1757)
当館蔵(彦根藩井伊家文書)

江戸時代、武家では正月に甲冑や鏡餅を飾り付ける具足飾という正月飾が行われていました。江戸城では黒書院に將軍の甲冑が飾られ、それにならって、彦根藩井伊家を含め大名や旗本の各家でも行われました。残念ながらビジュアル的に井伊家の具足飾の具体的な様子を伝える資料がありませんが、この慣習を踏まえて当館では正月に、藩主所用の甲冑とともに太刀、弓具、燭台、三宝(鏡餅がのる)を飾りつける形で展示しています。

側役日記は、藩主の近くに仕える側役という彦根藩役人が記した業務日誌。宝暦7年正月11日の箇条に、具足飾の鏡餅の鏡開きの記事があります。それによると、日の出過ぎ(六時半時)に鏡開きのお祝いをし、その後、鏡餅や酒を家老や近習たちが頂戴しました。江戸幕府でも正月11日に鏡開きをして大名等に配られますが、彦根藩でも藩士等に分配されていたことが分かります。



具足飾で展示する、朱漆塗紅糸威縫延腰取二枚胴具足(井伊家13代直弼所用)



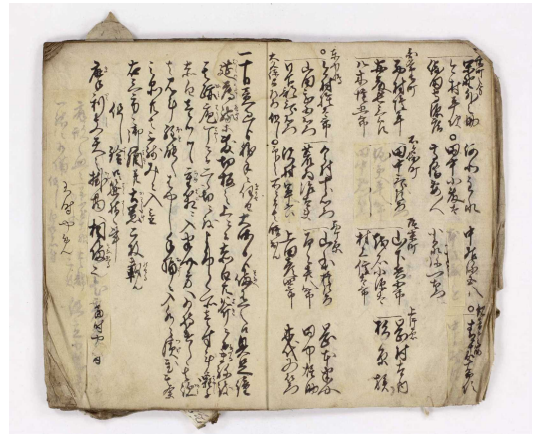
側役日記(宝暦7年)

ねんちゅうぎょう じ とめがき
5 年中行事留書 1冊 【展示リスト11】
 縦24.0cm 横17.0cm 江戸時代
 個人蔵(岡本半右衛門家文書)

彦根藩士岡本半右衛門家の年中行事を記載した帳面です。この中に、具足飾の鏡開きの様子について、次のように記されています。

「1月10日昼過ぎから、勝手にまかせて、大晦日^{むしろ}から供えていた具足飾の鏡餅を、^{こも}苳・薦等を敷き、切板の上で鏡餅を紅白ともに大斧で切るまねをし、その後に包丁で二つ切りにする。良いところを1寸ばかり「はやし」(切って)、紅白一つずつ重箱に入れて半介方(彦根藩士岡本半介のことか)へ遣わす。その残りは見た目にほどよいぐらいで「はやし」、手桶に入れ、水に漬け置く。さらにその残りは食べる。」

一般に、鏡開の際、切ることを忌んで、斧・鉈・槌などの道具を用い、「欠く」「割る」「はやす」など別の言葉で呼ぶ習わしがありました。ここでは「大斧で切る」と書いてしまっていますが、その習わしを受けての行為として理解できます。

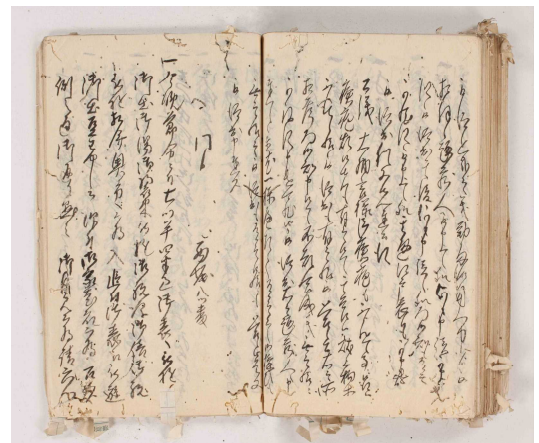


そばやくにつ き
6 側役日記 1冊 【展示リスト32】
 縦28.6cm 横20.1cm 明和7年(1770)
 当館蔵(彦根藩井伊家文書)

側役日記は、藩主の近くに仕える側役という彦根藩役人が記した業務日誌。明和7年12月20日の箇条に節分の祝儀のことが書かれています。江戸時代、暦は月の満ち欠けを基準としていましたが、立春等の二十四節気は太陽の動きを基準としているため、立春の前日の節分が12月中になることもありました。

このとき藩主は夕暮れ時(七つ半四半過ぎ)に彦根城表御殿の奥向きから表向きの部屋に来て、祝儀の膳が出されて、その後「豆はやし」(豆を投げて「福は内、鬼は外」をはやしたてること)を命じたと書かれています。

例年は日の入り頃(六つ時)にすることが多いのですが、この年は少し早くに祝儀を行っています。実はこの日、藩主は癩氣^{しやつき}(胸や腹の痛み)があったので、祝儀を早めに済ませようとしたのかもしれません。



7 ^{ごぜんかたにつき}御膳方日記 1冊 【展示リスト36】
縦12.0cm 横34.0cm 明治4年(1871)
当館蔵(彦根藩井伊家文書)

御膳方という彦根藩の役人による、毎日の藩主の料理の記録。明治4年のもので、同年7月15日に廃藩置県が実施されたので、彦根藩最後の年にあたります。

3月2日に御膳方が上巳^{じょうし}のお祝いの献立について伺いをしている記事がありますが、そこではあわせて「尤も、5日にお祝いする」としています。実際、3月3日の上巳当日にはお祝いをせず、3月5日に松原海老^{もりのみやよし}などで上巳のお祝いを行っているようです。3月3日には、宮様(井伊家14代直憲正室の糖宮^ニ宜子)・千賀姫(井伊直弼の娘・弥千代)・柳江院殿(井伊直弼側室)が天寧寺(現彦根市里根町、井伊直弼供養塔がある)へ出かけています。3月3日が桜田門外の変で井伊直弼が命を落とした日(安政7年[1860]3月3日)であるため、同日に上巳のお祝いを行わなかったものと思われます。

